科目コード	科　目　名	単位数
００８１	国文学基礎講義	４単位

教材コード　０００００３８
教　材　名　『日本文学　古典と近代』　（学習指導書別冊）
著 者 名 等　青木　賢豪・井草　利夫・長尾　勇

■教材の概要

本教材は，表題が示すように古典文学とそれを題材とした後の世の作品によって構成されている。古典は，「スサノヲ」（上代）・「かげろふの日記」（中古）・「俊寛」（中世）・「大つごもり」（近世）と各時代の特徴を備えた，しかもジャンルを異にした作品を選んである。また，関連する後の世の作品にしても様式の異なるものである。これらの作品をもとに読解力と鑑賞力を養うことや，古典と近代の作品を比較して生じる問題について考えることが可能である。

■学習計画のポイント

ページ 12 ～ 80

12 ～ 37 ページ

『古事記』の本文を口語訳して，全体の内容について把握し，「スサノヲ」像を正確に据える。『老いたる素戔尊』については，新旧の勢力が交代することによる「スサノヲ」の心情に注意して，作品を要約，把握する。

40 ～ 80 ページ

『蜻蛉日記』の本文を口語訳し，当時の時代背景なども参考にしながら全体の内容を把握する。次に『かげろふの日記』『かげろふの日記遺文』と関連させて，それぞれの作品の特色について要約・把握する。登場人物の心的関係に注意。

ページ 82 ～ 190

82 ～ 130 ページ

「俊寛」に焦点を当て，『平家物語』『謡曲俊寛』『平家女護嶋』『新・平家物語』などの作品を正確に読み解く。作品を比較して，「俊寛」の変貌する過程や，各作品の「俊寛」像を理解する。

132 ～ 190 ページ

「大つごもり」を題材とした三作品を正確に理解し，各作品の特色を把握する。また，作家や時代的特質がどのように作品形成に影響したか読み取る。さらに，上代から近代までの和歌の流れの中や，近世・近代の俳句における「雪・月・花」の変遷を概観する。

■学習上の留意点

① 古典の場合は，口語訳をして全体の内容を理解しておくこと。
② 各時代ごとの解説部分もよく読んでおくこと。

■参考文献

学習指導書にそれぞれ示してある。

科目コード	科　目　名	単位数
００８５	英語学概説	４単位

教材コード　０００４００
教　材　名　『英語学入門』
著 者 名 等　安藤　貞雄・澤田　治美

■教材の概要

英語学を学ぶ上での重要項目を必要不可欠なものにしぼり，体系的に纏めた入門書である。深い洞察に溢れる先行分析から得られた英語学の研究成果が，明確・簡潔に提示されている。英語研究の面白さに容易に触れることのできる初学者向けの教科書といえる。本書は，「英語学とは何か」「言語とは何か」を議論の出発点とし，音声学・音韻論，形態論，統語論，意味論，語用論といった英語学の中核的な研究分野の説明に加え，英語のフォニックス，情報構造，日英語の比較といった，従来の入門書ではあまり論じられてこなかった項目も扱っている。

■学習計画のポイント

ページ 133 ～ 213

課題１：語の「多義性」「意味変化」は，メタファー，メトニミー，シネクドキがその要因になっていることが多い。教科書と参考書を熟読し，その要因について認知意味論の観点から考察すること。
課題２：教科書と参考書を熟読し，各専門用語の表す意味の理解を深めること。

ページ 72 ～ 88，214 ～ 236

課題１：教科書と参考書を熟読し，各専門用語の表す意味の理解を深めること。
課題２：旧情報と新情報の配列が，各構文の容認性にどのように影響するのかを重点的に学習すること。

■学習上の留意点

Speechact は，日本語の文献によっては「発話行為」のほかに「言語行為」と翻訳する場合もある。リポート内では，教科書に従って用語を「発話行為」とすること。

■参考文献

※『現代英文法辞典』荒木一郎・安井稔編（三省堂）
『入門語用論研究』小泉保編（研究社）
『日英語対照による英語学概論（増補版）』西光義弘編（くろしお出版）

科目コード	科　目　名	単位数
００８６	英米文学概説	４単位

教材コード　０００００４１
教　材　名　『ENGLISH LITERATURE』
著 者 名 等　Laurence D.Lerner

■教材の概要

教材『English Literature』は英語を母国語としない外国人学生のために，詩，小説，劇を通して英米文学の鑑賞に至る道を教えてくれている。学生諸君は，著者の言わんとしていることに耳を傾けると同時に，各章に引用されている例文を，一片の例証として済ましてしまうのではなく，繰り返し熟読して，真の文学の鑑賞の方法を身につけなければならない。

■学習計画のポイント

ページ　1 ～ 128

1 ～ 66 ページ

Literature and Language の章では，優れた文学は言葉の適切な使用にあることを論じている。続く Literature and Society では文学作品はそれが生まれた社会の人々によってしか鑑賞され得ないのか否かを論じている。

67 ～ 128 ページ

Poetry の章では詩の言葉の特性を日常の言葉との比較において論じている。また，多くの例文を引用しつつ詩の法則を紹介している。最後に，結実したいくつかの詩を例にそれが外国の読者に何を意味するかを多角的に論じている。

ページ　129 ～ 199

129 ～ 162 ページ

The Novel の章では，優れた小説とは何であるかを，「物語」，「性格描写」，「筋」，「雰囲気」の項目に沿って論じている。最初に読書目録を掲げて取り扱う作品を示した上で，論を進めている。

163 ～ 199 ページ

Drama: Shakespeare の章では，劇のねらいや特徴を論じている。小説の章と同じ，「物語」，「性格描写」，「筋」（もしくは構成），「雰囲気」（もしくはカルチュア）の項目に沿って論を進めている，シェイクスピアからの引用が多い。

■学習上の留意点

上記の「学習計画のポイント」に沿って勉強すること。引用例文を疎かにしてはいけません。

■参考文献

特になし。

科目コード	科　目　名	単位数
００９１	哲学基礎講読	４単位

教材コード　０００００４２
教　材　名　哲学基礎講読
著 者 名 等　宮原　琢磨

■教材の概要

『論理学，別名思考の技法』（1662）は，19 世紀後半まで，西欧各地の大学で用いられた古典的名著である。本書はデカルトとパスカルの影響下で書かれたこともあって両人の合理的思考法を一般に広める役目を果たした。だが，それだけでなく，著者独自の思想にもとづき，人間探求の書として書かれているので，人びとに親しく読みつがれてきた。本書は西欧近代の思考法を理解するうえで，また，人間とは何かを考えるうえで大切な本書である。因に，17 世紀のバロック的知識が色濃く投影した作品としても興味深い。

■学習計画のポイント

ページ１～262

本書の第１部観念についてと，第２部判断についてを学習する。第１部は，観念の全般にわたる考察である。デカルトの影響下で書かれたものであるから，デカルトの『方法序説』『省察』などと比較して読むとよい。第二部は，判断のありかたと，正しい判断の諸規則について論じたものである。これもデカルトの上記の作品と比較しながら学習することが望まれる。この第２部は 18 世紀のカントの認識論にも影響を与えたと思われる。いずれにせよ，後の哲学の展開に影響するところ大であるから，よく考えながら学習することが肝要である

ページ 267 ～ 527

本書の第３部推理についてと，第４部方法についてを学習する。第３部の推理論は中世の伝統的論理学の推理の格式に加えて，古代のストアの論理学の推論も含まれている。とくに興味深いのは，第 19 ～ 20 章で，日常生活の談話のなかで犯される誤謬推理や詭弁にまで考察が及んでいるところである。第４部の方法論は，本書のもっとも重要な部分であり，歴史的にも高く評価されるべき部分である。第４部は学的知識の方法と，蓋然的知識の方法とに分けて論じられている。学的知識の方法論はデカルトとパスカルとにもとづいているので，デカルトの『精神指導の規則』とパスカルの『幾何学的精神』とを併せて読むとよい。蓋然的知識の論考は哲学史上最重要である。

■学習上の留意点

この授業の目的は，西欧の近代人の思考の「指導書」として，大きな意義をもつ本書を精読し，理解することである。理解の手助けとして，『論理学，別名思考の技法』研究序説（１～ 77 ページ）を付け加えておいた。研究序説を参考にしながら本書を読み進めるとよい。

■参考文献

※『世界の名著 27　ルネ・デカルト』（中央公論新社）
※『デカルト著作集Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ（増補版）』（白水社）
※『パスカル』アルベール・ベガン著，平岡昇・安井源治訳（白水社）など

科目コード	科　目　名	単位数
００９２	宗教学基礎講読	４単位

教材コード　０００００４４
教　材　名　『世界の宗教』
著 者 名 等　岸本　英夫　編

■教材の概要

わが国の宗教学を代表し得る執筆者たちが，客観的立場から世界の諸宗教について，その特徴と歴史とを記述したテキストです。個々の宗教について一応独立にあつかわれていますが,「インド人の宗教」と「仏教」,「ユダヤ教」と「キリスト教」「イスラム教」のように深い結びつきのあるものもあります。そういった結びつきにはよく注意して全体を読むように心がけて下さい。

■学習計画のポイント

ページ 39 ～ 62

第 4 章は,「特徴」と「歴史」について記すことを求めています。「特徴」については全体を読んだうえで 39 ～ 41 ページの記述をもとにまとめるよう学習して下さい。「特徴」は「歴史」の中に具体的に表れているはずです。「歴史」についてはテキストの時代区分に従って大きな流れをまとめられるように学習して下さい。年代をおぼえるといった必要はありません。ユダヤ教はキリスト教，イスラム教を通じて世界に大きな影響を与えた宗教です。キリスト教，イスラム教とのかかわりについては注意しましょう。両宗教に関する部分もあわせて読むと良いでしょう。

ページ 135 ～ 170

第 8 章は「特徴」と「歴史」について記すことを求めています。「特徴」については「シャカの一生とその教説」部分を読んだうえで，168 ～ 170 ページの記述をもとにまとめるよう学習して下さい。仏教の特徴はとりわけシャカの教説の中に具体的に表われています。「歴史」についてはテキストの時代区分に従って大きな流れをまとめられるように学習して下さい。年代をおぼえるといった必要はありません。仏教は「インド人の宗教」と密接な関係にあります。あわせて学習しておくとよいでしょう。

■学習上の留意点

宗教学は客観的な知識を問う学問です。あなたがどう思うか，とか信仰の深い理解とかを求めるものではありません。客観的知識を得たことを示すのがリポートでも試験でも求められます。そのつもりで学習して下さい。

■参考文献

テキストに文献目録があります。さらに勉強したい人は参照するとよいでしょう。街の書店にある信仰の立場にたつものや，あまりに大きなテーマのものはすすめられません。あわせてつかうなら，通信教育教材の『宗教学』や『宗教学概論』がよいでしょう。

科目コード	科　目　名	単位数
００９３	倫理学基礎講読	４単位

教材コード　０００３３７
教　材　名　『ソクラテスの弁明ほか』　（学習指導書別冊）
著 者 名 等　田中　美知太郎・藤澤　令夫　訳

■教材の概要

テキストには，プラトンの『ソクラテスの弁明』『クリトン』（以上二篇，第一分冊）『ゴルギアス』（第二分冊）が収められています。『ソクラテスの弁明』と『クリトン』では，ソクラテス裁判とその後の出来事が取り上げられていますが，それらを通じて，ソクラテスの生き方（そして，死に方）が描かれ，私たち人間にとって「よく生きる」とはどういうことなのかという問題が考察されています。『ゴルギアス』では，「弁論術とは何か」という問題を出発点としながらも，善，幸福，正義などの倫理的な問題が考察されていきます。

■学習計画のポイント

ページ１～136

『ソクラテスの弁明』では，哲学にもとづく自分の行き方を披瀝していますが，その「哲学にもとづく生き方」とはどのようなものなのでしょうか。また，彼は『クリトン』では，たとえ不当な判決であっても，それに従わねばならないと主張していますが，それはどのような考えにもとづいたものなのでしょうか。この二作品をじっくり読むことによって，ソクラテスの考え方と彼の選んだ生き方がどのようなものであったのかということをよく理解してください。そして，その理解を踏まえた上で，私たちの選ぶべき生き方とはどのようなものであるのかという問題について，自分でもじっくりと考えてみてください。

ページ137～477

『ゴルギアス』では，ゴルギアス，ポロス，カリクレスの三人とソクラテスとの対話を通じて，弁論術が善や幸福に寄与できるものであるかどうかが検討され，その検討を通じて，「善（善い生き方）とは何か」「幸福とは何か」という問題が追求されていきます。そして，その追求の中で，その善や幸福と正義との関係に議論の焦点が当てられていきます。そこで，まず，これらの議論の展開をできる限り正確にたどってみてください。そして，この『ゴルギアス』での議論をしっかり踏まえた上で，善い生き方とは何か，幸福とは何か，正義の人が必ず幸福であるのかという問題について，自分でもじっくり考えてみてください。

■学習上の留意点

この「倫理学基礎講読」の学習にあたっては，まず，何よりもテキストに取り上げられている三作品をじっくり読み，それらの作品中の議論の筋を正確に捉えるように心がけてください。そして，その作品の議論の展開やその結論について，それが自分に納得できるものかどうかをじっくり考えてみてください。そして，もしそれが納得できないものであったなら，自分にとってはどの点がどういう理由で納得できないのかをよく考え，その疑問の中身を明らかにしてください。

■参考文献

テキストを自分の力で読み解くことが最も大切なことですが，あえて参考文献を上げるとすれば以下のものです。

『ソクラテス』岩田靖夫著（勁草書房）
『プラトン－哲学者とは何か』納富信留著（日本放送出版協会）

その他に，プラトンの作品で，『プロタゴラス』（岩波文庫），『ラケス』（講談社学術文庫），『メノン』（岩波文庫），『饗宴』（新潮文庫），『パイドン』（岩波文庫）なども参考になるでしょう。

科目コード	科　目　名	単位数
００９５	日本史入門	４単位

教材コード　０００４８４
教　材　名　『方法教養の日本史』
著 者 名 等　竹内　誠・君島　和彦・佐藤　和彦・木村　茂光

■教材の概要

歴史への興味は多くの人が持つものであるが，それを歴史への“研究”へと結びつけるのは容易な事ではない。本書は，様々な事例を挙げて，単なる歴史への興味から研究へと進むための方法を具体的に追求しようとした書である。

本書はまず，「身近な体験」の項で，歴史学の対象は歴史上有名な人物や事件のみではなく，ごく身近な事柄の中にも存在する事を示し，次に「歴史への接近」・「テーマの発見」の項で，興味を抱いた対象をいかに研究し，歴史叙述へと深めていくのかが語られている。

■学習計画のポイント

本書は，序章に続き，Ⅰ「ドラマ」の世界，Ⅱ都市空間，Ⅲ暮らしの経済，Ⅳ戦争と平和，Ⅴ生と死，参考文献一覧，の部分で構成されている。

Ⅰ～Ⅴは，各章ごとに２～４本の論文が収められており，それぞれ興味ある内容であるが，論文の構成は「教材の概要」で述べたように，「身近な体験」，「課題への接近」，「テーマの発見」という共通した３つの部分からなっている。

本書を読むにあたっては，個々の論文内容を学習すると共にそれらを通じて“興味から研究へ”いかに進むかという方法論も併せて学んで欲しい。なお，「序章」も，本書全体のねらいを述べた部分であるので必ず読んでおくように。

■学習上の留意点

本書に収められた各論文を読み進みつつ，自身の研究課題は何か，それをどのような視点で把握し，研究を進めていくのかを常に考えるようにしてほしい。

■参考文献

各論文の文末，又は欄外に記された文献，及び巻末の参考文献を参照のこと。

科目コード	科　目　名	単位数
００９７	西洋史入門	４単位

教材コード　０００００４７
教　材　名　『歴史とは何か』
著 者 名 等　E.H. カー

■教材の概要

歴史は暗記物と思ってきた人にじっくり読んでほしい教材です。本書は 30 年以上前に書かれながら，歴史を研究する者の基本的な姿勢を教えてくれる点で，今尚新鮮な名著です。歴史とはどういうものか，歴史書をどのように読み，どのように研究をしていくべきかを著者は語りかけます。著者の博識に面くらい，難しいと思ってしまうかもしれませんが，何度も読めば「歴史は現在と過去の対話である」という言葉に凝縮されるカーの歴史哲学には，教えられることが多いでしょう。

■学習計画のポイント

① 歴史的事実は不動の「真実」なのだろうか。そうではなく，歴史家の目を通した選択・解釈と深い関わりがある。その歴史家も社会の産物であり，時代の影響を免れられない。「歴史」と「歴史家」との関係の深さを理解しよう。

② 「主たる原因に変化がない限り，すべての出来事には変化はありえない」とする「決定論」的歴史観からみた，歴史上の原因の相対的重要性，および，歴史の「法則」（むしろ，「仮設」だとカーがいうもの）と偶然との関係を読みとろう。

③ 科学としての歴史学と自然科学との共通点と相違点を理解しよう（研究対象が人間であることに注意せよ）。また，原因を追求する学問である歴史学において，多様な原因をどの様に区別すべきなのか，因果関係への取り組み方を考えよう。

④ 歴史は「過去と現在の対話」，また，「進歩する歴史」の立場からは「過去と未来の対話」，とカーはいう。過去の省察が現在，未来への展望を開くだけでなく，「対話」であることに注意。なお，「歴史の進歩」は単なる進化，前進ではない。

■学習上の留意点

① 「歴史家が歴史を作る」とはどういうことか。
② 「科学としての歴史」の仮設，判断基準，教訓と予言。
③ 歴史的事件における究極原因。
④ 「進歩する科学」としての歴史における客観性。

■参考文献

『新しい史学概論（新版）』望田幸男・芝井敬司・末川清著（昭和堂）
※『歴史をみる眼』堀米庸三著（日本放送出版協会）
『有斐閣シリーズ歴史学入門』浜林正夫・佐々木隆爾編著（有斐閣）
『ヨーロッパとは何か』（岩波新書）増田四郎著（岩波書店）
※『歴史学概論』（講談社学術文庫）増田四郎著（講談社）
『西洋近現代史研究入門（増補改訂版）』望田幸男他編著（名古屋大学出版会）
※『世界大百科事典』（平凡社），『新編　西洋史事典（改訂増補）』（東京創元社）等の事典類

科目コード	科　目　名	単位数
００９８	考古学入門	４単位

教材コード　０００００４８
教　材　名　考古学入門
著 者 名 等　竹石　健二・澤田　大多郎

■教材の概要

考古学は歴史科学であることを理解させると同時に史学との違いを研究材料および方法の相違から論述すると共に，日本考古学の時代･時期区分，日本考古学の発達の成果と課題，考古学の資料である遺跡･遺構･遺物についての説明と特徴，発掘調査の方法と発掘資料の整理方法，考古学の研究方法（資料の収集と分析･型式・編年・機能・当時の政治・経済・社会・文化の歴史の復元）等々について論述している。

■学習計画のポイント

ページ１～59

「考古学」とはどのような学問なのか，「史学」との違いはどこにあるのか，そして日本考古学は江戸時代以来どのように発展してきたのか，その結果と問題点は何か，また，日本考古学の時代・時期区分は何を基準として設定されてきたのか，さらに，考古学資料（遺構・遺物など）を得るための実際の発掘調査はどのように実施するのか，その実施とその方法，そして，発掘調査で得られた資料をどのように整理し，報告書を作成し公表していくのか，その方法と順序などについて論述している。

ページ61～81

「考古学」の研究方法を具体的に論述したものであり，考古資料の収集・分析・分類の具体的方法，考古学の基本の一つである「型式」とはどういうものか，その「型式」によって作成された「編年」との関係は何を意味するのかなどについて理解させるとともに，考古資料（遺跡・遺構・遺物）を基にした該期の政治・経済・社会・文化の歴史をどのように復元していくのかなどについて論述している。

■学習上の留意点

『考古学入門』の教材だけにたよることなく，教材の巻末に掲載しておいた参考文献や各地の調査団・教育委員会などから刊行されている発掘報告書などを十分に参照して勉強すること。

■参考文献

『考古学入門』の巻末に多数掲載してある。教材巻末を参照すること。